

鳥羽市総合教育会議 会議録（要旨）

会議の名称	令和3年度第1回鳥羽市総合教育会議
開催日時	令和4年3月22日（火）15：30～17：00
開催場所	鳥羽市役所本庁舎 市長室
議題	1. 支援を必要とする児童・生徒の現状について 2. 中学校の部活動支援員の配置について 3. コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について 4. その他
会議資料	【資料1】いじめ問題に係る鳥羽市の状況 【資料2】不登校児童生徒数・HARP 通級児童生徒数・虐待件数 【資料3】令和3年度 個別の支援を必要とする児童生徒の状況 【資料4】「部活動指導員」の概要 部活動指導員の配置について（県内状況） 【資料5】コミュニティ・スクールとCSディレクター CSディレクター業務内容 【資料6】鳥羽市海洋教育カリキュラム（SDGsを背景にして） 【資料7】R1～R3 英検チャレンジ受検結果推移
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	市長 中村欣一郎、教育長 小竹篤、 教育委員：奥村楠治、浅尾美沙、中村和久、中島幸代
欠席委員	なし
事務局	[鳥羽市教育委員会] 山本総務課長、山下学校教育課長、岡本生涯学習課長、 天田係長 [鳥羽市総務課] 中村課長、中村課長補佐

開会・市長あいさつ

1. 支援を必要とする児童・生徒の現状について

（教育委員会学校教育課長より【資料1】【資料2】【資料3】について説明。）

○教育委員

資料1のいじめの発生状況だが、今年度のデータは12月末現在だが、例年全件解消されているので、今年度も同様に全て解消できる見込みか。

○学校教育課長

軽微の事例が多く、双方の話し合いや謝罪等もあるほか、学校側がその後の様子を追跡しているので今のところ3か月後には全て解消されると見込んでいる。

○教育委員

質問ではなく意見だが、いじめや不登校は定例の教育委員会時にも言っているが、最悪の事例がでてきてマスコミの前で教育委員会が記者会見することもあり得る。いじめ（対応）は自分が子どもの時よりスケールアップしていて、地元の小学校や中学校ではもうあだ名で呼び合うことはない。それがいじめを誘発するということで「君」や「さん」づけで呼んでいる。自分が昔の時にはひどいあだ名が使われていたがそういうのも無くなってきた。気を付けているけど、最悪の状況はどこかに隠れていて出てくる時があるので、教育委員会としては「いじめ」や「不登校」などの対策は最重要課題。注意してもしすぎることはない。会議の度に重篤化していないかを確認させてもらっている。

○総務課事務局

ネット社会におけるいじめは見えにくいというのは確かにある。気が付くと重篤化している。

○教育委員

昔は入手できる情報が限られていた。先生や大人からの情報が大半で、本にしてもその真偽は確かめようがなかった。情報の取得に子供も大人もないので、大人であれば経験でその情報の判断ができるが、子供はその判断ができず、情報が安易に取得することに危険性がある。(持論だが) 社会は矛盾だらけであり、その矛盾に対し経験で判別していく必要があるのにそういった判断ができないから、悩んだり不登校へと繋がっていく。先生を含めもっと大人が気を付けて見守っていく必要があると思う。

○教育委員

関連するが、いじめ発見のきっかけが資料1にも記載されているが、アンケート調査が大半で、聞かないと発見できないというのが怖く感じる。発見のきっかけの中で、項目10の「地域の住民からの情報」が「0」というのは、やっぱり気になる。市としてももっと(地域への周知を)強化して住民の目も加われば(いじめが)もっと発見できるのではないかと感じる。

○教育委員

コミュニティスクールもこれから浸透してくるので、(いじめが)もっと発見しやすくなる可能性もでてくる。大人が関わることによってあとで(いじめが)もっと発見しやすくなる。形だけのコミュニティスクールではなくて、しっかりした良いものになるよう努力していかないといけないと思う。地域の役割は大きい。

○総務課事務局

地域の住民からの情報が「0」というのは、偶々ということも考えられるが市長が常々言われている「地域共生社会」ということで地元がこういったことにも関わられるのならいいことだと思う。

○教育長

「鳥羽でもいつ起こってもおかしくない」という危機感を持っていないといけないと思うのが1点と、アンケート調査ということだが子どもの訴えがあれば全て取り上げる。例えば兄弟がいて「弟が兄から嫌なことを言われた」と言われると1件としてカウントされる。いじめは必ず存在するが、いじめをどのように見つけそれをスルーしないように自分たちの問題として取り上げてどう解決するか、という力をつけるということを大事にしたい。大人や地域が介入して、どうこう言うのではなく、子供達に「どう思うのか」と対話をしながらみんなで考えていく、そういう力を身につけさせることが大事であり、いじめ問題の根本だと思う。

○市長

アンケートの内容は(県下)統一様式なのか。設問次第で件数が変動するのでは。

○学校教育課長

学校の様式を使用してもいいのだが、(鳥羽市は)県の様式をそのまま活用している。必ず1学期に1度は行うようにしている。先ほど教育長の説明があったとおり、今は報告があればそのまま(いじめとして)取り上げている。「(自分が)いやな思いをした、心が傷ついたから報告している」という基準だ。従って、全てカウントしている。

○教育委員

1学期に1度が標準か。

○学校教育課長

それ以上の学校もある。

○教育委員

それは過去にいじめが多かった結果か。

○学校教育課長

必ずしもそうではなく、実施回数については学校の方針となる。

○教育長

以前ならいじめの報告があっても一度は先生のフィルターを通していたので件数は今より少なかった。

○学校教育課長

京都や鹿児島などでは、以前から全て取り上げていた。そのため一時的に三重県とは10倍ほど差があった。この乖離に疑問を持たれ、以前より(いじめとして取り上げる)ハードルが下がり、結果件数が増大することになった。

○教育委員

いじめ問題（に対する取り組み）は昔と比較すれば格段に良くなっている。自分達の時はもっと酷かった。ただ、（今は）大人が分からなくなり見つけにくくなった。SNS 等に対しては大人の方が無知。それをどう見つけていくのかが先生や教育委員会に求められている課題。非常に難しい。

○総務課事務局

確かに自分達の時代のいじめはもっと酷かったが、表面化するので分かりやすかった。SNS を用いたいじめに対し、教育委員会が監視できるのかと言われると、別の話であり難しい課題であると感じている。

○学校教育課長

ネットワーク（の怖さ）に関しては、どの小中学校もそのことは指導している。具体的な事例を交えながら伝えているが、それで無くなるのかと言われると難しいところで、先生に訴えがあって初めて認知することになる。学校サイドから探っても見えてこない。

○教育長

先生にも（いじめの存在を認知する）感性やそのことに対する対応が求められるが、そのことに対し「先生が（特定の生徒を）ひいきしている」「差別している」と言われる保護者もいる。

○教育委員

資料2のHARPの通教児童の増加について、県に対応職員の増員を要望しているとのことだが、市の方でサポートできないのか。（対象者が）まだ今後も増えてくるのではないか。

○市長

本来は指導員の適正数は何人なのか。

○教育長

本来は県の方から2人。それから市の職員ということで、この人数からいけば3人が常勤しながら内2人が学校に行き来する。1人はHARPに常駐し、電話の相談を受けたりとか、というのが本来は理想形。現実はそのままで整わない。現状は1人は県の職員が常勤し、1人が市の会計年度任用職員として対応している。週2日こころの健康相談員もしている。来年度は長岡の子がいるがHARPに通うのが困難なので、長岡中学校を1室確保して、そこへ職員を週2日通わせることで対応を予定している。どうしてもフルタイムの職員が少ない。

○教育委員

（長岡学校の統合にあたり）保護者から、統合もいいがそういった子供達の通学のことも考えてほしい、という意見があった。HARPに通える子ばかりではない。当事者の保護者でなければこの気持ちは分からない。対象者の保護者からすればすごく重たい案件。HARPなどを通じて社会生活に適應できていない子供たちをどう適應させていくかというのは非常に重たい課題。

2. 中学校の部活動支援員の配置について

（教育長より【資料3-1】【資料4】について説明。）

○教育委員

長岡中学校が統合するにあたり保護者の関心が一番高かったのが「（長岡中学校では）クラブ活動が選択できない」ということだった。統合することにより選択肢が生まれ、結果、アンケートでも統合に約9割が賛成してもらっている。将来、加茂中学校も統合へ向けて進めていくにあたり、「クラブ」というものを通じて鳥羽版の良いものを作っていきたい。2月に文科省主催の教育委員の研修会があって「クラブ活動を選択できたりとかいい先生を招聘したりとか、そういった面でも統合する。」と意見を言ったら「（その考えが）すごく進んでいる。」と言われた。「自分達のところは数合わせで行っている統合が多い。」との意見だった。学校の統合というとネガティブなイメージを持ちがちだが、逆にクラブ活動のブラッシュアップに繋がる。（ブラッシュアップすることで）学校教育のことを考えて鳥羽市に残ろうという選択をしてくれる保護者もいるかもしれない。小学校は地域に残して、中学校はクラブとかも活用しながら他の市町に自慢できるような、そういう仕組みが作っていければいいと思う。

○市長

先ほど教育長がいろんな分野でと言われていたが、全国大会に出場する子供達が表敬訪問してくれるが、以前はレスリングをしていた子供達がソフトボールで三重県選抜として出場するなど、選択肢がな

い中で、球技に全く接点がないことに取り組んでいた子供達がソフトボールで才能を伸ばすなど、選択肢が無い中でも異なる分野へと繋がっている。

○教育委員

本来畑違いの分野からということだが、この子達はレスリング以外にも野球などいろんなことに取り組んでいて、そういった中で体幹が鍛えられ、また中学校に入学した時先輩たちがソフトボールで活躍しているのを見ていて憧れを抱いた、というのもソフトボールへの挑戦のきっかけだったようだ。傾向としては良い傾向だと思う。今後、いろんな種目が広がって行って、それだけ可能性が広がるというのは非常に魅力的で、専門の方が就かれるというのも子供達にとっては手厚くて魅力的でいいと思う。もう一つ思うのは今の子供達はメンタルトレーナー、医学療法士なども就けば「鳥羽市は良いな」という評価に繋がるのではないかな。

○教育長

そういうのは（体育施設の施設管理者の）三幸さんにそういったスタッフを選んでもらって（各クラブに）派遣してもらったりとか各スポーツと連携できるのが理想的かなと思っている

○市長

この前体育館を訪問した時、バスケットチームが体育館を利用していたが、バスケットをするのではなく、新潟から専門の講師を招いて体の動かし方を学んでいたという話を聞いた。施設も今回新しくしたのも影響しているのかもしれない。環境が変われば指導方法なども変わってくる。

○教育長

鳥羽市はコーディネーショントレーニングを一つの柱にしながらやっていきたいと考えている。

○教育委員

この4月から長岡中学校が東中学校に統合されて新生のクラブ活動となる。是非、その様子を市長にも見ていただきたい。市長が見に来るとなれば子供達の励みにもなる。

3. コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について

（教育委員会学校総務課長より【資料5】について説明。）

○市長

PTAとの兼ね合いはどうなるのか。

○教育長

PTAとか青少年育成会とも統合していくこととなる。今迄は各学校の校長や教頭が（ディレクターの役割を）担っていたが、職務の軽減の観点から地域の人に担ってもらうのが一番良いのではないかと考えている。

○教育委員

文科省の会議でコミュニティスクールについて説明があったが、地域の特性を生かすことを目指しているのだから、100の地域があれば100通りのコミュニティスクールが存在することになる。総合型地域スポーツクラブにしても同じことが言えるが、参考事例の話聞いても、若干は参考に出来ても、その事例をそのまま真似することはできない。地域的に見ると、長岡や弘道とか各離島はそれぞれの特色がでてくる。鳥羽小、加茂小、安楽島小に（SCディレクターを）設置するというのは教育長の的確な判断だと思う。この前（長岡中学校の）閉校記念事業（壁画に絵を描く）を見に来てもらったが、あういうことを相違地区ではどんどんやっていきたいと考えている。また統合することにより、中学校のグラウンドを誰も使用しなくなる。コロナ禍で奉仕作業が無くなり草がすごく伸びた。それを見た近所の高齢者達があれを自分達が処理すると申し出てくれるが、受け入れ側の窓口が無く、こういった時にコミュニティスクールがあればスムーズにいったのではないかなと思う。面白い取組ではないだろうか。市長が言われている「地域共生社会」を小学校から学んでいくことになる。

○市長

地域に意欲的な人がいた時にそういった人達の窓口になる組織があればいいかなと思っていた。

○教育長

昨年、コミュニティスクールの先進地ということで亀山市に視察に行き、学校運営協議会の事務局を担当している人と話をしたが、鳥羽市は放課後子ども教室も取り入れながら更に一步踏み込んだ組織を目指していきたいと考えている。

○教育委員

例えば地元の老人クラブ等各団体も巻き込みながら何かが形成されていくのではないかと考えている。

○教育委員

多世代間の交流も増えるのではないかと。以前ならこういった多世代間の集まりは地元の祭りなどで形成されていたが、最近は薄れている。コミュニティスクールを通じて形成されていけばいいと思う。

○教育長

そういう意味では個人的には各学校のグラウンドや図書館は地元開放されてもいいのではないかと考えている。市の図書館まで通うのが難しい地域もある中で図書館だけでも解放されれば、もっと地元と密着した学校になるのではないかと考えている。

○教育委員

鳥羽小学校の通学の見守りのことで、バスの子もいれば電車の子もいて見守りが必要だが、場所によっては1人が見守る範囲が広い箇所もある。通学の見守りという意味では地元がもっと関わってくれるのなら良いことだと思う。

○市長

見守る範囲が広いというのは具体的にはどこか。

○教育委員

小浜口というバス停から乗る子供達が縁石で待っている。中之郷駅なら4人で見守りをしているのに小浜だと1人の方がカバーしている。そういったことを地域でカバーできればいいのではないかと。と思う。

○教育委員

地元もそういった声がかかるのを待っているかもしれない。

4. その他

(教育長より【資料6】【資料7】について説明。)

○教育委員

(海洋教育として)日本でも有数ではないか。こういう教育ができる鳥羽をもっとアピールしてもらって、それで若い人達が来てもらえれば尚良い。

○教育長

カリキュラムが軌道に乗れば「自分がやろう」という地元の人達が増えてくるのではないだろうか。(鳥羽市水産研究所の)岩尾氏も積極的だし、三重大の先生もすごくやる気を出してくれている。

○教育委員

こういう教育を受けてお金になる、商売に繋がることがあれば、地域に残ってくれる子供達が増えるのではないかと。

○教育委員

今日いろいろな資料の説明を受けたが、学校教育に関しては教育長を始め、教育委員会として非常に手厚く取り組んでいるのが分かった。これから鳥羽市の人材も有能な人材が現れるかもしれない。ただ、有能になるほど鳥羽市から出ていくといった傾向が垣間見える。有能な人達が「鳥羽市で起業しよう」と思えるような市に、「起業のチャンスがある鳥羽市」と思えるような市を作ってほしい。

○教育長

今年の成人式の実行委員会の子供達にそういう傾向がある。また早くも来年の成人式の実行委員会に名乗り出ている子達もいる。彼らは明らかに鳥羽市を意識してくれている。いい流れだと思う。

○教育委員

漠然と勉強するのではなく、はっきりとした目標があって初めて勉強にも身が入る。もっと夢を語りその夢を実現するにはどういった勉強が必要なのかを学んでほしい。

○市長

ここ数年、「海のシリコンバレー」を言い続けてきたが、海に関する研究施設や大学施設がこの狭いエリアにいくつかある。鳥羽商船やIT企業が結びついて市と協定を締結するなど、可能性がある土地だということで、ここで起業すると良いことがあるという気風を醸し出したのではないかと考えている。

この海洋教育を含め、誘因の種は撒けたのではないかと考えているし、元々景気が悪化しても年間 400

万人以上の人が訪れる場所なので、鳥羽らしく加工して長所を伸ばせていけばいいなと思っている。

○教育委員

今の小中学生で約 1000 人近くいるが、その子供達が 25 歳前後になった時、1 割も残ってくれているのかは疑問に思う。この少ない子供達がどうにか鳥羽市で定住できるように（まちづくりを）お願いする。